

平成20年 8月 6日

沖縄県立学校事務職員協会
会 長 又 吉 伸 子 殿

第61回全国公立高等学校事務職員研究大会 研修報告書

学校名 沖縄県立小禄高等学校
職氏名 事務主事 照屋 綾香

みだしのことについて、次のとおり報告します。

期 間	自平成20年 7月23日 ~ 至平成20年 7月26日
場 所	愛媛県県民文化会館
報告事項(別紙不可)	
文部科学省 講話	講師職氏名 職名 初等中等教育局初等中等教育課 氏名 大川 晃平 内容 「今後の教育改革について」と題し、教育基本法・教育3法・教育振興計画と学習指導要領の改正を中心に講話された。「教育立国」を宣言し、「生きる力」(思考力・判断力・表現力+知識)を育成することを目指す。高校においては大きな変更はないが、小学校では外国語教育を取り入れ、また、理数教育・伝統文化・道徳教育・体験活動の充実を図る。子どもと向き合う時間を拡充させるとし、教職員定数の改善し1000人増、外部人材の活用、学校支援地域本部を設置することがあげられた。特別支援においては、さらなる個別的対応、小・中学校・高校での支援と交流、拡大教科書の配布も図られている。教職員の待遇の改善の改革も行われ、教員給与の見直し・学校評価の外部委託・教員免許更新制の導入(来年より)等が行われる予定である。また、学校現場の負担軽減についての説明があった。 感想(講話や分科会発表が学校現場でどのように活用できるか) 日々の業務では、なかなか知ることのできない教育改革について学ぶ機会を得ることができよかった。事務の仕事をしている中では通常の業務をこなすことで精一杯で、こういった国全体で動いている教育改革の流れを知ることができない。今回の講話で、国の教育についての方向性を知ることができてよかった。今後は、今行っている仕事の意味を考え、内容をより理解しながら業務に取り組むことができる。

分科会

内容

第4分科会「今日的課題への提言～多様な視点からの学校づくりを考える～」
基調講演と3つの研究発表からなる。

研究発表1「未来にむけて～大阪府立学校事務の今昔物語 S S Cの導入 そして未来へ」

事務処理のスピードアップと効率化を図り平成16年度より導入している総務財形システム「S S C」を寸劇を取り入れ紹介。S S Cは、「発生源入力」を基本とし、それは、自分のことは”ジブン”で行うという考えのもと、出勤・人事や給与・福利厚生・行政文書等を電子システム上で行う。紙で印鑑をもらって事務処理を行うのではなく、電子入力・電子承認・電子決裁・電子施行している。

研究発表2「先生のための事務手引き - 繰り返しの質問を減らすために - 」

何度も繰り返される事務に関する先生からの質問。これを減らすために作成された「こんなときどうするの？先生のための事務手引き」の紹介と研究を発表。手引きの内容として、先生からの質問の多い、授業料・給与のこと、また、毎年提出する書類について記載されている。さらに、冊子として作成後は、P C版を作成し、多くの職員への閲覧と経費削減を図った。その後アンケート調査を実施した。

研究発表3「学校事務職員の研修制度について - 資質向上を目指して - 」

学校事務の職種の特性（ルーティンワークの多さ等）による思考力低下や説明力の不足等による研修の必要性を提示した。佐賀県が行っている研修を知事部局の研修と比較したうえで、事務研修は知事部局の研修の聴講・教職員の研修に参加している形となっている。それをふまえ、佐賀県事務職員協会では、平成16年度から、能力開発・自己開発・教養研修を行っている。

基調講演「予算削減の中での学校経営」

時間の関係上、香川県の財政状況・学校事務職員数の実情についてが主になった。

感想（講話や分科会発表が学校現場でどのように活用できるか）

研究発表1

寸劇をまじえた非常に面白い発表だった。出勤管理から物品調達に関する事務まで、電子システム上で入力から決裁までいけるのは、事務職員の定員削減が図られる中で、学校事務の効率化にもつながると感じた。

研究発表2

「先生のための事務手引き」を実際に配布され、見る事ができた。まだ、学校事務を初めて4ヶ月であるが、確かに先生から同じ質問をたびたび出ていることを感じている。また、事務職員である私自身にも分かりやすく、勉強になる内容であった。先生だけでなく、担当以外の事務職員にとっても役立つ内容の手引きであると感じた。

研究発表3

研修についてのテーマは新採の私にとっては、非常に興味のあるテーマだった。実務以外に重点をおいている研修の実例であったが、学校の窓口になり、民間とも関わる機会の多い事務職員にもコミュニケーション能力や説明力向上等の研修は有意義であると感じた。さらに、実務研修がより充実すると仕事始めの人にとっても非常に役立つと感じる。

	<p>基調講演</p> <p>実情が主になってしまったのは残念だったが、沖縄県以外も人員削減が進んでおり、学校事務員数も6人から5人4人3人と減少しているのが数値として示されることでリアルに実感でき、事務のさらなる効率化を図らなければならないと切実に感じる事ができた。</p>
--	--

<p>全体会</p>	<p>内容</p> <p>「四国の遍路文化」</p> <p>四国の遍路文化について、各パネリストの体験談を通して感じたこと。考えたことを聞かせて頂いた。各パネリストに共通していることは、お遍路を通じて四国の人々の「お接待」を受け、自然と助け合う習慣が四国の人にはできていると感じたことである。それは、子どものころから当たり前「お接待」をしており、それを日常として受け入れ、何ら特別なことと思っていないからである。現代の若者にもお遍路をすることで、助け合うことを学んでほしい。</p> <p>感想（<u>講話や分科会発表が学校現場でどのように活用できるか</u>）</p> <p>お遍路についてまったく知らなかったので勉強になった。お接待を通して助け合うことを日常として経験したこと、実際に「お接待」を受けた側としてのことを聞き、「助け合い」は受ける側・する側にも影響を与えると感じた。学校事務職員も組織の一員であり、人と関わる仕事である。その中で「助け合い」を自ら実践していくことで人間関係を構築し、業務も活かしていきたいと感じた。</p>
<p>特別記念 講演 (班別討議)</p>	<p>内容</p> <p>「限られた予算の有効活用」</p> <p>香川県中部養護学校の現状を説明、それをもとに討議に移った。香川県中部養護学校の実情としては、県費予算の約6割が需用費であるが、平成19年度需用費決済額のうち約8割が燃料費と光熱水費となった。現在予算節約のために実行していることは、スケールメリットの活用・リサイクル製品の購入・コピー機の長期継続契約等を行っている。スケールメリットにおいては消耗品単価が4から5割安となった。討議においてもスケールメリットやコピー機長期継続契約等により、印紙代・消耗品の経費削減につながっている。また、その他の経費削減納方法としてデマンドの導入・トイレのセンサー・乙姫の設置等が行われている。</p> <p>感想（<u>講話や分科会発表が学校現場でどのように活用できるか</u>）</p> <p>各都道府県の情報を直に聞いて非常によかった。しかし、私自身があまり情報を持ちえていなかったため、情報提供できなかつたことが残念であった。日常業務を行う中でも予算の節約は大きな問題であると感じている。スケールメリットの活用やコピー機の長期継続契約は県単位で契約しなければならないが、導入できたら大きな効果になると感じた。</p>